

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑫

- 女性 / 22歳
- 職業/年次：事務(1年目)
- 居住エリア：町田市
- 居住形態：実家暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：国内：箱根（初任給で親孝行）/15～16万
- 2026年夏休みの計画：なし（友人と近場BBQ）

<結果サマリー>

奨学金返済前の初任給で親孝行、今後も『大人』として『間違いないパッケージ』で期待以下を絶対に避ける旅

1. 導入

根拠：町田市から都内へ通勤する社会人1年目であり、日々の業務と満員電車に「慣れるのに精一杯」な状態にある。学生時代のアクティブな休日とは対照的に、現在は「休む」ことがメインとなり、SNSでの「現実逃避」や、コンビニの少額消費にさえ物価高を実感する切実な金銭感覚を持っている。

推論：急激な生活環境の変化により、心身の余裕が枯渇している。日々の労働を「消費される時間」と捉えており、その対価として得られる初任給や休日を、単なる余暇ではなく、疲弊した自己を維持・回復するための切迫したリソースとして管理しようとする心理が働いている。

FD：生活圏の維持に全力を注ぐ新社会人にとって、可処分所得と時間は「将来の制約（奨学金等）」を見据えた防衛的・投資的な対象へと変質している。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：初任給の大部分にあたる15～16万円を「親孝行」の箱根旅行に投じる一方で、夏休みは「節約モード」として近場のBBQに留めるという極端なメリハリをつけている。「中途半端にケチるのが一番コスパが悪い」と断じ、宿の質（露天風呂付き客室）には徹底してこだわる。

推論：全方位的な充足を諦め、一点豪華主義的な「確実な満足」にリソースを集中させている。これは失敗（リスク）を極端に嫌う心理の表れであり、高額な支出を「親へのケジメ」や「自分への投資」という大義名分で正当化することで、経済的不安からくる心理的負荷を相殺している。

FD：物価高・低賃金下の20代において、旅行は「回数」から「確実な情緒的リターンが見込める一回」へと、徹底した選択と集中が行われている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行を「仕事を続けるための必要経費」や「自分を回復させるための儀式」と定義する。今後の制約下でも「賢い贅沢」として、質の高い体験が保証された「大人旅」や「宿で完結する旅」を望んでいる。デジタル旅行は「下見」に過ぎず、五感を通じた非日常体験を譲れない一線としている。

推論：将来の経済的制約を前提とし、失敗（リスク）を極端に嫌う心理から、確実な情緒的リターンが得られる「間違いのないパッケージ」に惹かれている。未知の冒険よりも、SNS等の理想イメージを下回らない、確実な自己回復と「ハズさない」ための保証を旅行に求めている。

FD：対象者にとって旅行は贅沢品ではなく、閉塞感のある日常を生き抜くための「生存戦略」の一環として、質を担保した上で聖域化されている。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：奨学金返済という長期的負債と物価高の中で、新社会人としての「大人への脱皮（親孝行）」と「自己の防衛（休息）」を、限られた給与の中で成立させようとしている。SNSで理想を補給しつつ、現実には「ハズさない」ための情報精査と、極端な予算配分で対応している。

推論：将来への不安を冷静に直視しているからこそ、刹那的な浪費を避け、自身の精神的充足に直結する体験に対してのみ、戦略的に高額な投資を行う「防衛的リアリスト」の姿が浮かび上がる。

FD：制約を嘆くのではなく、制約を前提とした上で「失敗できない自分」を確実に癒やすための、高度に最適化された消費行動を選択している。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今日は、日々の生活のことや、お休みの過ごし方について、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。まずはじめに、ご自身のことについて少し教えていただけますか？ 今どちらにお住まいで、どのような毎日を過ごされているか、お仕事やご家族のことなど含めて教えてください。

【対象者】 はい、よろしくお願いします。えっと、今は東京都の町田市に住んでいます。家族と一緒に実家暮らしです。仕事はこの4月から、一般事務として働き始めたばかりの新社会人です。毎朝、町田から都内のオフィスまで電車で通勤しているんですけど、まだ1ヶ月経っていないので、正直毎日慣れるのに精一杯っていう感じです。

【インタビュアー】 慣れるのに精一杯、とのことですが、具体的にどういったところに感じますか？

【対象者】 うーん、やっぱり生活のリズムが学生の時と全然違うなって。満員電車もそうですし、デスクワークでずっと座りっぱなしなもの意外と疲れるんだなって実感しています。帰ってきたらもうクタクタで、平日は寝るだけみたいな日も多いですね。

【インタビュアー】 そうなんですね。そんな中、最近の休日はどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日は……とにかく「休む」がメインになっちゃってますね（笑）。昼過ぎまで寝て、溜まっていた録画を見たり、SNSをダラダラ見たり。あとは、学生時代の友達と近場でランチに行くくらいです。最近ハマっていることと言われると難しいんですけど、仕事で使うExcelの勉強を少しずつ始めたり、あとはSNSで美味しそうなカフェとか、現実逃避できるような綺麗な景色の動画を保存したりするのが、ちょっとした癒やしになってます。

【インタビュアー】 現実逃避できるような動画、ですか。ちなみに、今一番関心があることや、生活の中で気になっていることは何かありますか？

【対象者】 関心があること……。やっぱり「お金」のことですかね。初任給も入ったばかりなんですけど、学生の頃に借りていた奨学金の返済もこれから始まりますし。物価も高いじゃないですか。コンビニでちょっと飲み物とパンを買うだけでも「高っ」って思うことが増えたので、これからどうやってやりくりしていこうかな、っていうのは、結構切実に考えています。

【インタビュアー】 ご実家にお住まいとのことですが、ご同居のご家族構成について、詳しく伺ってもよろしいですか？

【対象者】 父と母、それと大学生の弟の4人家族です。基本的には夜はみんな揃って家でご飯を食べる感じですね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。また、先ほど「今の休日は休むのがメイン」とおっしゃっていましたが、就職前の学生時代は休日にどんな過ごし方をされていたのでしょうか？

【対象者】 学生時代は、今より全然アクティブでしたね。飲食店のアルバイトを週4日くらい入っていたので、休日は基本バイトか、バイト代が入ったら友達と渋谷とか新大久保に遊びに行ったり。あとは長期休みになると、サークルの友達と安い夜行バスを使って遠出したりもしていました。今はもう、あの頃みたいな体力はないなって思っちゃいますけど（苦笑）。

【インタビュアー】 夜行バスで遠出もされていたんですね。ちなみに、その頃と比べて、今の「休み」

に対する感覚で一番変わったなと思う部分はどこですか？

【対象者】 うーん……「時間の貴重さ」ですかね。学生の時、お金はないけど時間はいくらでもあるって感じだったんですけど、今は「せっかくの休みなんだから、無駄にしたくない」っていう気持ちが強いです。でも、結局疲れ果てて何もしないまま一日が終わっちゃって、「ああ、今日も SNS 見て終わった……」って自己嫌悪になる、みたいな。休みたいけど、何かしてないと損してるような、変な焦りがある気がします。

【インタビュアー】 新大久保に遊びに行かれるということは、K-POP や韓流ドラマなどが好きなのでしょうか？

【対象者】 あ、はい。高校生くらいの時からずっと好きです。特定のグループの熱狂的なファン（推し活）っていうほどではないんですけど、韓国アイドルの曲はよく聴きますし、ドラマも Netflix で話題のものは一通りチェックしてます。新大久保に行くのは、コスメを見たり、友達と韓国料理を食べたりするのが目的ですね。あの雰囲気に入るだけで、ちょっと非日常感があって楽しいなって。

【インタビュアー】 非日常感、ですか。新大久保で感じるその「非日常」というのは、具体的にどういう瞬間に感じますか？

【対象者】 うーん……やっぱり、ハングルが溢れてたり、最新の韓国のトレンドがすぐ手に入ったりするところですかね。日本にいるんだけど、ちょっとだけ海外旅行に来たような気分になれるというか。特に今は、本物の海外旅行に行こうとすると航空券とかめっちゃ高いじゃないですか。だから、手軽に「海外っぽさ」を味わえる場所として、私の中では結構大事なスポットです。

2. 2026 年の G W ・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。生活の背景がよく分かりました。では、ここからは具体的に今年の大型連休の過ごし方について伺わせてください。まず、今度のゴールデンウィークの予定は何か立てられていますか？

【対象者】 ゴールデンウィークは、一泊二日で箱根に行く予定です。ちょうど初任給が出たタイミングなので、両親を連れて親孝行旅行をしようかなと思って。私と、両親と、あと弟も一緒なので家族 4 人ですね。

【インタビュアー】 ご家族で箱根、いいですね。具体的な計画を詳しく教えてくださいませんか？ 行き方や泊まる場所、現地で何をするかなど。

【対象者】 移動は、町田からだとロマンスカーが便利なので、それで行く予定です。宿は、強羅の方にある、客室に露天風呂がついている旅館を予約しました。アクティビティというか、特にあちこち観光するつもりはなくて、旅館でゆっくり美味しいものを食べて、温泉に入って……っていうのがメインです。あ、でも母が「彫刻の森美術館に行きたい」って言っていたので、そこだけは寄るかもしれません。

【インタビュアー】 ロマンスカーで強羅の露天風呂付き旅館、素敵ですね。そのプランや行き先は、どうやって決めたのでしょうか？

【対象者】 実は、最初は「初任給で韓国旅行に連れて行ってあげたい」って一瞬考えたんですよ。でも、今の円安とか燃油サーチャージのことを調べたら、4 人分なんて到底無理だなんてすぐに諦めました

(笑)。それで、現実的に予算内で収まって、でも「特別感」が出る場所ってどこだろうって考えた時に、箱根なら近いし、移動にお金をかけすぎずにその分宿を豪華にできるかなって思ったんです。

【インタビュアー】なるほど、「移動にお金をかけすぎず、その分宿を」という配慮があったんですね。

ちなみに、今回の費用についてはどう考えていますか？ ご自身の普段の生活費とのバランスなど。

【対象者】正直、かなりキツイです(苦笑)。新社会人一発目の給料のほとんどが飛んでいく計算なので……。でも、これは自分の中で「絶対にやる」って決めていたことなんです。奨学金の返済が本格的に始まると、たぶんこういう大きな出費ってしにくくなると思うんですよね。だから、自由にお金を使える最初で最後のチャンスかなって。普段はコンビニの買い食いを控えたり、お弁当を作ったりして、なんとかこの旅行代を捻出している感じです。

【インタビュアー】奨学金の返済が始まる前の、ある種「特別な出費」という位置づけなんですね。では、一方で「夏休み」の方はいかがでしょうか？

【対象者】夏休みは……今のところ、宿泊を伴う旅行の予定はないです。地元の友達と近場でBBQをしようって話しているくらいですね。

【インタビュアー】夏は宿泊の予定はないとのことですが、それはどういった理由からでしょうか？

【対象者】やっぱり、GWに全振りしちゃったからですね(笑)。お金もそうですけど、仕事が始まって数ヶ月経った時期に、自分がどれくらい疲れているか想像がつかなくて。わざわざ混んでいる時期に高いお金を払って遠出するよりは、気を使わない友達と近場で安く済ませるのが一番かなって。本当は海とか行きたい気持ちもありますけど、今は「節約モード」に入らないと、冬のボーナスまで持たない気がしています。

【インタビュアー】「GWに全振り」して、夏は「節約モード」と使い分けをされているんですね。ちなみに、昨年(2025年)の連休の過ごし方と比べて、何か意識的に変えたことや、逆に変えざるを得なかったことはありますか？

【対象者】去年は学生だったので、友達と夜行バスで格安の四国旅行に行ったりしてたんです。宿も素泊まりの安いゲストハウスみたいなところで全然平気でした。でも今年は、自分が社会人になったっていうのもあるし、今の物価高の影響で、中途半端な安さを求めると逆に満足度が低い気がしちゃって。「安かろう悪かろう」になるくらいなら、回数を減らしてでも、GWみたいに「一回を豪華にする」っていう考え方に変わった気がします。昔みたいに「とりあえず遠くへ！」っていう勢いだけでは動けなくなりましたね。

【インタビュアー】GWの箱根旅行について、弟さんも含めてご家族4人分の旅費を、全てご自身で出されるのでしょうか？ 初任給が飛ぶとのことですが、具体的なご予算の総額はどのくらいを見込まれているのか詳しく教えていただけますか。

【対象者】はい、基本的には全部私が出すつもりで計画しています。ただ、ロマンスカーのチケット代だけは、父が「それくらいは出させてくれ」って言ってくれたので甘えちゃったんですけど、宿泊代と現地での食事代とかは私が払います。予算は……全部で15万円から16万円くらいを考えています。

【インタビュアー】15~16万円、ですか。新社会人の一ヶ月分のお給料としては、かなり大きな割合を占める額ですよ。その金額を出すことに対して、ためらいや迷いはありませんでしたか？

【対象者】もちろん、「ああ、これで貯金がゼロになるな」っていう怖さがありますよ(笑)。でも、今までずっと実家で甘えてきましたし、就職が決まった時も両親がすごく喜んでくれたので。さっき

も言いましたけど、これから奨学金の返済が月々2万円くらい始まると、たぶんもう「15万円ポンと出す」なんて、何年もできなくなると思うんです。だから、今しかできない「投資」みたいな感覚ですね。

【インタビュアー】 「今しかできない投資」という言葉が印象的です。ちなみに、その15~16万円という金額の中で、特に「ここにお金をかけるのは譲れない」と思ったポイントはどこですか？

【対象者】 それはもう、絶対に「宿」です。せっかく親孝行で行くのに、周りに気兼ねして大浴場に行くのも落ち着かないかなと思って、奮発して「露天風呂付き客室」にこだわりました。実は、最初はまだ少し安いプランも探したんですけど、SNSとかで見る「憧れの旅館」みたいなキラキラした感じがないと、自分も「頑張ってる褒め！」っていう実感が湧かない気がして。結局、中途半端にケチるのが一番「コスパ」が悪いなって思ったんです。

【インタビュアー】 「中途半端にケチるのが一番コスパが悪い」、ですか。そのあたりをもう少し詳しく教えてください。

【対象者】 えっと……例えば、3万円出して「普通」のところに泊まるよりも、4万円出して「最高！」って思えるところに泊まったほうが、結果的にその思い出を何回も思い出して仕事頑張ろうって思えるじゃないですか。今は物価も上がってるから、少し安くしても結局「なんか思ってたのと違うな」ってなるのが一番もったいない気がして。だから、GWはドカンと使って、その分夏はBBQで数千円で済ませる。この「メリハリ」がないと、今の時代、普通に暮らしてるだけでお金がなくなっちゃうので、自分なりに必死に考えてバランス取ってるつもりです。

【インタビュアー】 初任給をもらったならご両親に親孝行を、と決めていたとのことですが、そもそもなぜそのように考えておられたのでしょうか？何かきっかけや、ご自身の中での思いがあったのですか。

【対象者】 うーん、なんででしょうね。特別なきっかけがあったわけじゃないんですけど……。やっぱり、大学4年間、高い学費を出してもらったっていうのが大きいんです。奨学金は借りてますけど、それだけじゃ全然足りなくて、結局親にかなり負担をかけていたので。就職活動中も、全然内定が出なくて落ち込んでる時に、文句も言わずに普通に接してくれたりして。社会人になって初めて「自分で稼ぐ」という経験をした時に、これを何十年も続けて私を育ててくれたのって、実はとんでもなく凄いことなんじゃないかって、急に実感したんですよね。

【インタビュアー】 ご自身で稼ぐ経験をして初めて、ご両親の凄さを実感された。

【対象者】 そうです、そうです。だから、一番最初のお金は、自分のために使うより、まずは「今までありがとうございました」という形にしたかったんです。まあ、格好つけて言ってますけど、結局、実家暮らしで今も甘えさせてもらってるので（笑）。一度ちゃんと区切りをつけないと、いつまでも子供の気分のままでいちゃいそうだな、っていう自分のためのケジメみたいな意味もありますね。

【インタビュアー】 「自分のためのケジメ」ですか。それは、ご自身にとってどういう感覚に近いですか？

【対象者】 「一人前の大人として、家族の輪に加わる」といった感じですかね。今まではずっと「連れて行ってもらって側」だったのが、初めて私が「連れて行く側」になる。この立場の逆転を自分の中でちゃんとやっておかないと、これから始まる大変な仕事も、奨学金の返済も、なんか「やらされてる感」が出ちゃいそうで。自分の意志でお金を使って、誰かを喜ばせるっていう経験を、社会人のスタートに置いておきたかったんだと思います。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 ご自身なりの「ケジメ」としての親孝行旅行、非常に重みのあるお話でした。ありがとうございます。ここからは少し視野を広げて、今後のことについて伺わせてください。今後、ご自身が「やってみたい」と思っている旅行は何かありますか？

【対象者】 そうですね……。やっぱり、今回は諦めた韓国旅行にはいつか行きたいです。それも、学生の時みたいに安いゲストハウスに泊まるんじゃなくて、ちゃんとしたホテルに泊まって、最新の美容体験をしたり、SNSで話題のカフェを巡ったりする、大人の韓国旅行がしたいですね。あとは、国内でも星野リゾートみたいな、そこに行くだけで完結するような宿にも興味があります。

【インタビュアー】 大人の韓国旅行や、宿で完結する旅、ですね。一方で、最近「青春 18 きっぷ」のような時間をかけた格安の旅や、あるいはYouTubeやVRなどで楽しむ「デジタル旅行」というものもありますが、これらについてはどう思われますか？

【対象者】 18 きっぷは……正直、今の私にはちょっとしんどいかなって思います（笑）。学生の頃なら「安さ」が正義でしたけど、今は限られた休みを移動の疲れで潰したくないっていう気持ちが勝ちちゃいますね。デジタル旅行については、YouTubeで綺麗な景色を見るのは大好きです。寝る前とかによく見ます。でも、それはあくまで「下見」とか「癒やし」であって、旅行とは別物かな。匂いとか、その場の空気感とか、旅館のご飯の味とか……そういう「五感」を使う体験は、やっぱり現地に行かないと得られないので。デジタルは、現実の旅行に行けない時の「代用品」っていう感じです。

【インタビュアー】 「五感を使う体験」は現地ならではの、ということですね。では、改めて伺います。あなたにとって「旅行」とは、一言で言うとどのようなものだと言えますか？

【対象者】 うーん……「今の自分をリセットして、明日からまた頑張るための燃料」でしょうか。普段の生活って、どうしても職場と家の往復になっちゃって、特に事務仕事だと変化も少ないんです。でも旅行に行くと、全然違う景色を見て、美味しいものを食べて、自分を甘やかしてあげられる。そうすると、「あ、またこの楽しみのために1ヶ月頑張ってるぞ」って思えるんですよね。私にとって旅行は、単なる遊びっていうよりは、仕事を続けるための「必要経費」に近いかもしれません。

【インタビュアー】 「仕事を続けるための必要経費」、ですか。ただ、今後さらに物価が上がったり、奨学金の返済が始まったりと、経済的な制約は強くなっていくかと思います。その中で、ご自身の「旅行」はどうなっていくと思いますか？

【対象者】 現実的に考えると、回数は間違いなく減ると思います。今までは「年に3回行こう」って思ってたのが、「年に1回、その代わり本気でいいところに行く」っていうスタイルにならざるを得ないかな、と。でも、どれだけ生活が苦しくなっても、「全く行かない」という選択肢はないです。もし旅行を完全に諦めちゃったら、私、何のために働いてるのか分からなくなっちゃう気がして。

【インタビュアー】 回数は減っても「全く行かない」選択肢はない。その「制約」のある未来に対して、ご自身はどう感じていらっしゃいますか？

【対象者】 正直、不安はありますよ。奨学金の返済も20年近く続くわけですし……。でも、だからこそ「なんとなく行く旅行」はもうしないと思います。SNSで流れてくるキラキラした情報に流されるんじゃなくて、「自分はこれが好きだから、ここにはお金をかける」という基準をちゃんと持たたい。全部は手に入らないからこそ、今回の箱根みたいに「ここぞ」という時にドカンと使う。そうい

う「賢い贅沢」ができる大人になりたいなって、今は思っています。

【インタビュアー】 「賢い贅沢」、ですか。最後に、どんなに制約があっても、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思うことはありますか？

【対象者】 「非日常の空間で、誰かとゆっくり過ごす時間」ですね。一人でデジタル旅行を見るのはタダですけど、大切な人と、その時しか味わえない空気の中で、美味しいものを食べて笑い合う。その体験だけは、どんなに物価が上がっても、お金を貯めて手に入れ続けたいです。それがなくなっちゃったら、私の人生、すごく味気ないものになっちゃいそうなので。

【インタビュアー】 先ほど、今後行きたい旅行として「大人の韓国旅行」や「そこに行くだけで完結するような宿」とおっしゃっていました。なぜそういった旅行に行きたいのでしょうか？ 色々な旅行先や旅行スタイルがある中で、なぜ今、そういった行き先やスタイルに惹かれるのでしょうか。

【対象者】 うーん……やっぱり、「ハズしたくない」という気持ちが強いんだと思います。学生の時みたいに、とりあえず安ければいいって思って選んだ場所で、壁が薄かったりご飯が微妙だったりして、「あー、失敗したな」と思いながら過ごすのが、今はすごく苦痛というか、もったいなく感じちゃうんです。

【インタビュアー】 「ハズしたくない」ですか。その感覚をもう少し詳しく言うと、どういうことでしょうか？

【対象者】 さっきも言いましたが、今はとにかく仕事で疲れてるし、お金も限られてるじゃないですか。その貴重なリソースを投下するのに、SNSで流れてくるキラキラしたイメージを下回る体験にお金を使いたくないんです。「大人の韓国」とか「宿で完結」というのは、ある程度お金を出す分、質の高い体験が保証されている感じがして。

【インタビュアー】 質の高い体験の「保証」、ですか。

【対象者】 そうです。自分で一生懸命予定を詰め込んで動き回って疲れるよりは、最初から「間違いないパッケージ」に身を置いて、絶対に満足できるって分かっている贅沢をしたい。今の私にとって、旅行は「新しい発見をする冒険」というよりは、日常で削られた自分を「確実に回復させるための儀式」みたいなものなのかもしれません。だから、失敗の可能性（リスク）がある格安旅行よりも、確実にご褒美感が得られるスタイルに惹かれるんだと思います。

【インタビュアー】 その「ハズしたくない」旅行というのは、今回のようにご家族と行くイメージでしょうか。それとも、お一人やご友人、あるいはパートナーなどと、どなたと行くようなイメージをされていますか？

【対象者】 あー……それは、友達とか、いつか彼氏ができたら彼と、っていうイメージですね。もちろん家族ともまた行きたいですけど、「大人の韓国」とか「宿を楽しむ旅」は、自分と同じような価値観で、一緒に「最高だね」と言い合える相手と行きたいです。

【インタビュアー】 「同じような価値観で言い合える相手」ですか。

【対象者】 はい。家族だと、やっぱりどこかで私が気を使っちゃうとか、今回みたいに「喜ばせなきゃ」という使命感みたいなものが混ざっちゃうので。そうじゃなくて、純粋に自分の「好き」だけに集中して、一緒に写真を撮ったり、贅沢な時間に浸ったりできる相手がいいですね。そういう気兼ねない相手と、ハズさない場所で過ごす時間こそが、今の私にとっては一番のご褒美になる気がします。

【インタビュアー】 ありがとうございます。自分自身の「好き」に集中して、贅沢な時間に浸る。それが明日への燃料になるということですね。

本日は貴重なお時間をいただき、また、ご自身の生活や大切にされている思いを率直にお聞かせいただきまして、本当にありがとうございました。本日のインタビューは以上で終了となります。ありがとうございました。